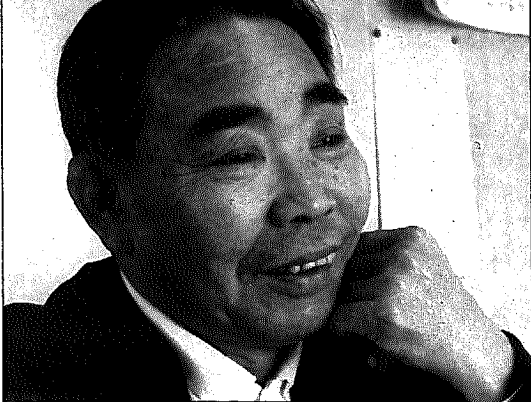


試験場前で店を開いている長谷川芳郎さん(68歳・善久)は「やっぱり、寂しいねえ」と一言。



やっぱり、寂しいねえ。私なんか人生の大半は試験場だからね。店から毎日試験場を見ているんだけどね。なくなるかと思うと……。私、県警の整備工場に勤めていて、試験場が昭和大橋のたもとから黒崎へ移るといので、すぐ前の土地を買った。昭和33、4年ごろかな。当時、周りはブドウ畑で何もなかった。越して来たのは41年だったと思う。そのころから教習所やお店ができてきた。うちは51年にカアちゃんが始めたんだ。「写真黒崎」。私は退職する53年3月まで試験場に勤めていて、その後はここで行政書司の仕事をさせてもらっている。移転しても私らはここで店をやっていくつもりだ。それしかできないよね。

ベテラン試験官の栗林昌一さん(51歳・県警)によれば「新しい免許センターは走りやすい」

私が試験官になったのは昭和39年です。ここでは2番目の古株です。思い出も多いですね。忙しかったのは昭和40年代。ナイターで試験をしたりして1日20人という時もありました。最近では2人ぐらいです。技能試験は学校で済ませてますからね。採点は、運転技術よりも安全運転かどうかのポイントですよ。免許をとっても事故を起こしてはなんにもなりません。私も注意しています。新しい免許センターは最新の設備ですし、コースは大きく広く実際の道路に近くなって、初心者には走りやすいと思います。ただ、黒崎からは遠いですからね。わが家からも32キロです。通勤のために、ディーゼル車に乗り換えました。



# さよなら。自動

あ	な	た	と	
	町	を	つ	な
				く

## 広報

# くるさき

1989  
**5**  
No.308

「先のことを考えると心配で…」渡辺朝子さん(52歳・善久)はまだまだ不安を隠せません。



うちは教習所をしているもので、移転されては困ります。一緒に移る人もいますが、うちは残ります。地元への相談もせずに、何の補償もないし。みんな心配なんです。先のことを考えるとね。こうして子守をして土手を歩きながら試験場を見てるんです。もうどうにもならないですね。跡に出来る観光物産センターに、少しは期待できるんじゃないか。

「試験場と一緒に移ることにしました」と新潟個人教習所協会会長の萩野光男さん(54歳・善久)

反対したり頼んだり、いろいろやりました。試験場の隣で営業している我々には死活問題ですよ。結論は、試験場と一緒に移れる人は移ろうということになりました。黒崎や新潟など10軒で新潟個人教習所協会を作りまして、新しい試験場のまえに事務所を開くことにしました。もう土地は買いましたし、営業している人もいます。ここまで来るのに苦労しました。県に陳情したり……。だけど、みんな大変ですよ。お金があるわけじゃないし、若いときからこの商売だからもう年も年でしょ。仕事だって厳しいね。向こうへ行って果たしてうまく行くかどうか、不安です。私は土地は買いましたけどしばらくここでやっています。



# 車試験場